PIONEER®
音と光の未来をひらく

取扱説明書

ステレオダブルカセットデッキ

T-W01AR

デモモード
デモモードにすると、さまざまな表示を見ることができます。
デモモードにするには、電源スイッチを押し、停止状態にてデッキII のカウンターモードボタンとリセットボタンを同時に押します。
デモを解除するには本体のいずれかのボタンを押してください。

このたびは、パイオニアの製品をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。
本機の機能を十分に発揮させて効果的にご利用いただくために この取扱説明書を本機ご使用の前に最後までお読みください。
特に「安全上のご注意」は必ずお読みください。
お読みになった後は「保証書」、「ご相談窓口・修理窓口のご案内」と一緒に保管してください。使用中にわからないことや不具合が生じたとき、きっとお役にたちます。

目次

ご使用の前に

操作

その他

安全に正しくお使いいただくために

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

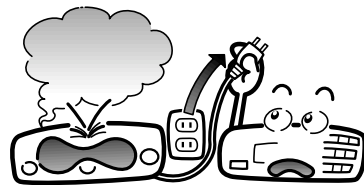
●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

安全上のご注意

⚠警告

〔異常時の処置〕

● 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

プラグを抜け

● 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

プラグを抜け

● 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

プラグを抜け

結露について

本機を冷え切った状態のまま暖かい室内に持ち込んだり、急に室温を上げたりしますと、動作部に露が生じ(結露)、本機の性能を十分に発揮できなくなることがあります。
このような場合には1時間ほど放置するか、徐々に室温を上げてから使用してください。

アフターサービス

■保証書 （別に添付してあります。）

保証書は必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取り、内容をよく読んで大切に保管してください。
保証期間はご購入日から１年間です。

■補修用性能部品の最低保有期間

テープレコーダーの補修用性能部品の最低保有期間は製造打ち切り後６年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

■修理に関するご質問、ご相談は

お買い上げの販売店または、最寄りの当社サービスステーションをご利用ください。
所在地、電話番号は別添の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■修理を依頼するとき

もう一度取扱説明書をよく読んでください。確認した後なお異常のあるときは、まず電源プラグを抜いてから下記の要領で修理を依頼してください。

● 保証期間中は

万一、故障が生じたときは保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理致します。お近くのパイオニアサービスステーションまたはお求めの販売店にご連絡ください。保証書の規定にしたがって、修理いたします。

連絡していただきたい内容

- ご住所、お名前、電話番号
- ご購入日、製品名（カセットデッキ）、型番（T-W01AR）
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標（建物、公園など）

● 保証期間が過ぎているときは

最寄りのパイオニアサービスステーションまたはお求めの販売店にご相談ください。
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理致します。

ご使用の前に

カセットテープの取扱い

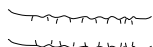
カセットテープと上手にお付き合いいただくために

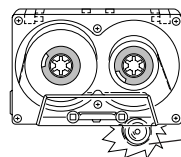
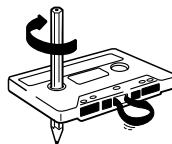
日頃 なにげなく使っているカセットテープ…
でも 本当はとてもデリケートなのです。

いまお手持ちのカセットテープが 次のような場合ですと、テープが内部でからまり、せっかくのテープをダメにしてしまうことがありますので、ご注意ください。

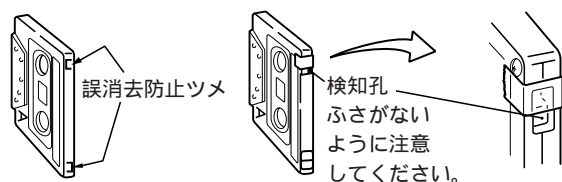
■ C-90をこえるテープは使わないでください!
C-90をこえるテープはテープが薄く、ピンチローラーやキャプスタンに巻き込まれたり、巻き乱れを起こすなど故障の原因となりますので、使わないでください。

■ 巻き乱れのあるテープ、わかめ状になったテープ、伸びたテープも、からまってしまう場合があります。

巻き乱れのあるテープ

わかめ状になったテープ

伸びたテープ

■ たるんでいるテープは、鉛筆でたるみを直してからご使用ください。

セットする前に

■誤消去防止について

カセットテープのケース（ハーフ）には、たいせつに保管しておきたい録音済みのテープを誤って消去しないように、保護機構としてツメがあります。ツメ（下図）をドライバーなどの先で折ると、録音しようとしても録音状態にならないため、誤って消去することはありません。
誤消去防止ツメは A または B（1または2）面それぞれの左上にありますので、片面ずつ誤消去防止を行うことができます。ツメを取ってしまったカセットに再び録音する場合は、下図のようにツメの部分にセロハンテープなどを二重に貼ってください。

ご注意
TYPE II (HIGH/クローム) およびTYPE IV（メタル）のテープの場合、テープ種類検知孔をふさがないように、十分注意してください。検知孔をふさぐと、オートテープセレクター機構が正しくはたらきません。

上手に使うポイント

■リーダーテープにご注意

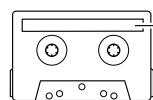
カセットテープの始めには、リーダーテープ（録音できない部分）がついています。約5秒間テープを走行してから録音を始めてください。

■カセットテープの保管

カセットテープを裸のまま放置しないでください。使用後はホコリやゴミが付着しないように、またテープのタルミを防ぐために、カセットケースに入れて保管し、保管場所にはホコリ・ゴミ・油・磁気・湿気の影響を受けない所を選んで保管してください。

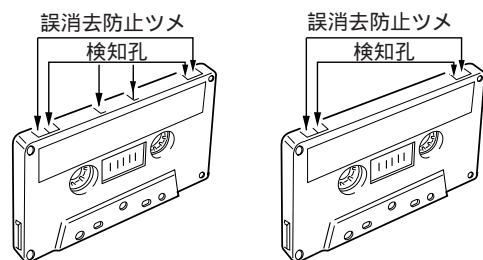
■録音前にテープのチェック

録音前に一度、早送り、巻戻しを行うことをおすすめします。テープの巻きムラなどによって起こるデッキへの負担を防げます。

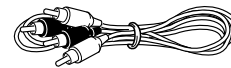
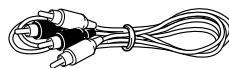
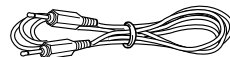
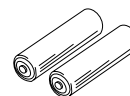
■タイトルラベルはしっかり貼りましょう

ラベルがしっかり貼られていないと故障の原因となる場合があります。

オートテープセレクター機構

本機はカセットハーフにある検知孔によりテープの種類を検知して、それぞれのテープにあった録音バイアス、イコライザーを自動的に設定するオートテープセレクター機構を備えています。

- TYPE III テープは使用しないでください。
- TYPE IV （メタル）テープは検知孔のついているものを使用してください。

TYPE IV (メタル)テープ

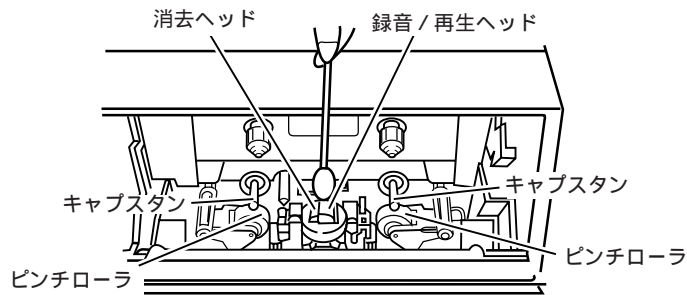
TYPE II (HIGH/クローム)テープ

付属品の確認

お手入れのしかた

ヘッドは汚れていませんか？(ヘッドの清掃)

ヘッド、キャプスタン、ピンチローラーはテープ走行による汚れや、ゴミ、油などが付着しやすい部分です。定期的にヘッド、ピンチローラー、キャプスタンを**10時間程度の使用を目安に清掃します。**

別売のカセットデッキクリーニングキット“ JV-CI ”を使用することを推奨します。
詳しい使い方は“ JV-CI ”取扱説明書をご覧ください。

カセットデッキのヘッド部の清掃

清掃のしかた

1．電源スイッチを切ります。
2．イジェクトボタン（⏏）を押してカセットドアを開けます。
3．クリーニング棒（綿棒）をクリーニング液で軽くしめらせて、清掃します。

ご使用の前に

ご注意

- 乾式のヘッドクリーニングカセットは使用しないでください。
- 清掃後は、クリーニング液は乾くまで（２～３分）テープをセットしないでください。
- 市販されているヘッドクリーニングカセットの中には、オートリバースメカ対応になっていないものもあり、クリーニングカセット自体取り出せなくなる恐れのものもありますので注意してください。

ヘッドの消磁

長い間本機を使っていると、ヘッド部に磁気を帯びることがあります。
またヘッド部にドライバーや磁石などを近づけると同じような障害が起こります。ヘッドが磁化されると「サー」という雑音が増えたり、高音が低下したりします。
市販のカセットタイプのヘッドイレーサーで定期的にヘッドを消磁してください。ヘッドの消磁をするときは、本機の電源をオンにしてください。アンプやスピーカーに悪影響をあたえないように、**アンプの音量は必ず最小にしてください。**
スピーカーの入/ 切スイッチがある場合は、スイッチを切ってください。またヘッドホンのプラグは端子から抜いておいてください。
詳しくは、ヘッドイレーサーの取扱説明書をご覧ください。

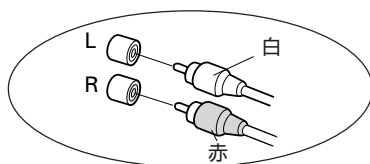
本体のお手入れ

通常は、柔らかい布で乾拭きしてください。汚れがひどい場合は水で5 ～6 倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞った後、汚れを拭き取り、その後乾いた布で拭いてください。

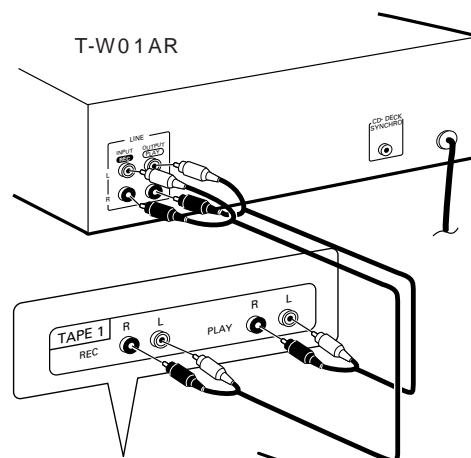
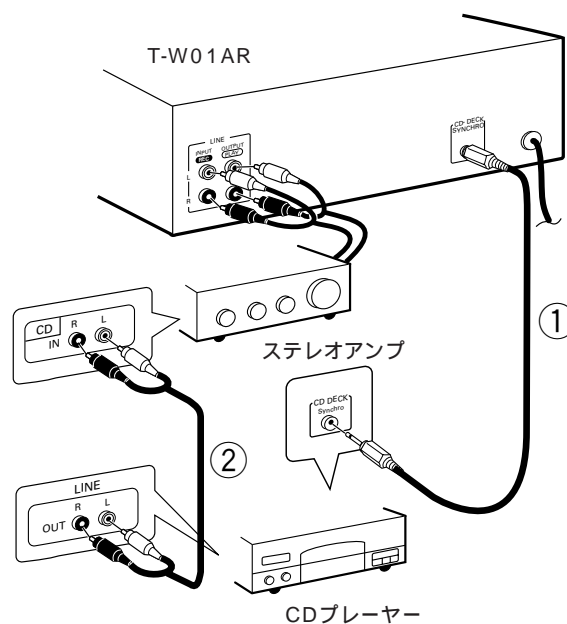
アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると塗装がはげることがありますのでご注意ください。また、化学ぞうきんなど使用するときは化学ぞうきんに添付の注意事項をよくお読みください。

接続のしかた

アンプと接続する

● オーディオコードを端子の色に合わせてつなぎます。必ず、奥までしっかり差し込んでください。
● 白いプラグは (L) 側、赤いプラグは (R) 側に端子の色と合わせてつなぎます。
● 接続コードは録音用と再生用に２本付属しています。

CD プレーヤーと接続する（CD・デッキシンクロコードの接続）

パイオニアの CD デッキシンクロ端子のある CD プレーヤーと接続すると、CD の録音が手軽に行えます。

① **CD・デッキシンクロコードをCD·DECK SYNCHRO端子につなぎます。**
② **CD プレーヤーとステレオアンプも、オーディオコードで入力・出力端子の接続をしてください。**
（光ファイバーケーブルでデジタル接続をしている場合でも、オーディオコードを接続しないと CD・デッキシンクロ録音ができません。）

電源コードを接続する

すべての接続が終わったら、電源コードをアンプの予備電源コンセント、または壁の電源コンセントにつなぎます。この時本機は電源オンになります。
お使いにならない時は電源スイッチをスタンバイ（スタンバイインジケーター点灯）にしてください。

■電源コードの接続

本機は電源の極性が管理されていますので右下図の方法で接続することをお薦めします。本機の電源コードの白線側を電源コンセントのアース側（溝の長い方）に合せて差し込みます。

電源コードの接続のしかたについて

接続場所 ＼ 機能	●壁のコンセント ●ステレオアンプの予備電源コンセント（非連動：UNSWITCHED）	●オーディオタイマー ●ステレオアンプの予備電源コンセント（連動：SWITCHED）
タイマー演奏	動作しない	動作する

各部の名称

フロントパネル操作部

*
- ドルビーノイズリダクション及びHX PROヘッドルームエクステンションはドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。HX PROはバングアンドオルフセンの考案です。
- ドルビー、DOLBY、ダブルD記号及びHX PROはドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションの商標です。

表示部

デッキIカウンター
- カウンターモードで設定したモードを数字で表示します。
- ミュージックサーチ時の曲数を表示します。
- エラー発生時にサービス番号を表示します。

ドルビー NR 表示
ドルビー NR システムのタイプを表示します。

AUTO表示
ALCAチューニング完了時に点灯します。

CD シンクロ表示
CD シンクロ録音時に点灯します。

デッキIIカウンター
- カウンターモードで設定したモードを数字で表示します。
- ミュージックサーチ時の曲数を表示します。
- FLAT, ALCAシステムが調整中の内容を表示します。
- エラー発生時にサービス番号を表示します。

NR BC　AUTO　CD SYNC
L
R
PLAY　FLEX　COPY　—∞　—20　—10　—6　—3　•0　+3
BLE　REC　PLAY

デッキIテープ走行表示
◀ ▶ : 走行方向を示します。
巻戻し、早送り、ミュージックサーチ中は点滅します。
停止中は点灯します。

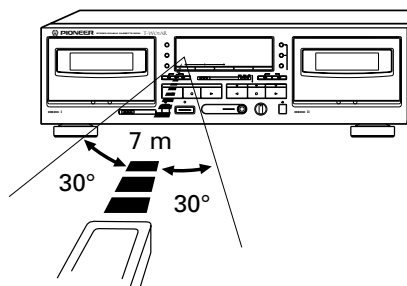
コピー表示
ノーマルスピードコピー、TDNSコピー時は点灯、ハイスピードコピー時は点滅します。

レベルメーター
L: 左チャンネル
R: 右チャンネル
●印はドルビーNRシステムの基準レベルを示します。

デッキIIテープ走行表示
◀ ▶ : 走行方向を示します。
巻戻し、早送り、ミュージックサーチ、一時停止中は点滅します。
停止中はどちらかが点灯します。
PLAY : 再生中に点灯します。
REC : 録音中に点灯します。

フレックスシステム表示
FLEXボタンを押すと点灯します。

BLE 表示
FLATシステム使用時に次のように表示します。
点滅：調整中
点灯：調整完了

リモコン操作可能範囲：
- リモコン操作可能範囲はカセットデッキとの距離が約7m、角度は左右にそれぞれ約 30 ° 以内です。
- リモコン受光部に直射日光や蛍光灯の強い光があたると、リモコンが操作できなくなる場合があります。
- カセットデッキとの間に障害物があったり、カセットデッキ前面との角度が不適切だとリモコン操作ができない場合があります。
- 赤外線を発する機器の近くでカセットデッキを使用したり、赤外線を利用した他機のリモコン装置を使用すると、カセットデッキが誤動作することがあります。逆に赤外線によってコントロールされる他の機器を使用中に本機のリモコンを操作すると、その機器を誤動作させることがあります。
- リモコンの操作可能範囲が極端に狭くなってきたら、電池を交換してください。

リモコン操作部

● 付属のリモコンで、主要な操作を離れた場所で行うことができます。
● リモコン前部をテープデッキフロントパネルの受光部へ向けて操作してください。

電源ボタン（POWER）

ストップボタン（■）
すべての動作が停止します。

プレイボタン（◀）
リバース再生するときに押します。

巻戻しボタン（◀◀）
テープを巻戻すとき押します。また、ミュージックサーチを行うときも使用します（☞ 14, 15 ページ）。

ポーズボタン（II）
録音または再生時にテープ走行を一時停止します。再びスタートするときは、もう一度押します。早送り・巻戻し中は一時停止できません。

録音ボタン（●）
両方のボタンを同時に押すと、録音スタンバイ状態になります。
ポーズボタン（II）を押すと録音スタンバイ状態が解除され、録音が開始されます。

カウンターモードボタン（COUNTER MODE）
押すと、カウンターモードが順々に切換わります。

カウンターリセットボタン（COUNTER RESET）
カウンター表示が 0000 になります。

プレイボタン（▶）
フォワード再生するときに押します。

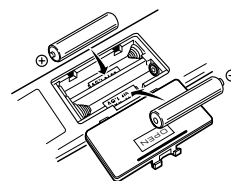
早送りボタン（▶▶）
テープを早送りするとき押します。また、ミュージックサーチを行うときも使用します。（☞ 14, 15 ページ）

録音ミューティングボタン（○）
録音中に無録音部分をつくります。

デッキ II 操作ボタン
デッキ II の操作に使います。
働きはデッキ I の同じマークの操作ボタンと同じです。

⚠注意

乾電池の誤った使い方をしない：
乾電池を誤って使用すると液漏れや破裂などの危険があります。次の点についてご注意ください（電池の注意事項もよく見てください）。
●乾電池のプラス⊕とマイナス⊖の向きを電池ケースの表示通りに正しく入れてください。
●新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
●乾電池には同じ形状のものでも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
長い間（１か月以上）使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出してください。もし、液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよくふきとってから新しい電池を入れてください。
●付属の乾電池を充電、ショート、分解したり火中に投入したりしないでください。

電池の入れかた：
裏ぶたを外側にすべらせてはずし、乾電池（単４形）２個を内部の表示（+、ー）どおりに入れ、もとどおりにふたをはめ込みます。

乾電池２個
（単４形乾電池 IEC R03）

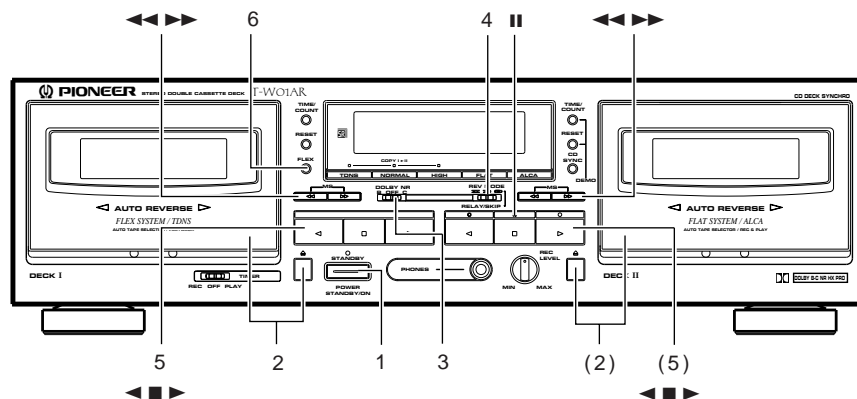
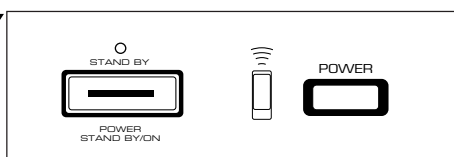
再生（カセットテープを聞く）

マークはリモコンでの操作です。

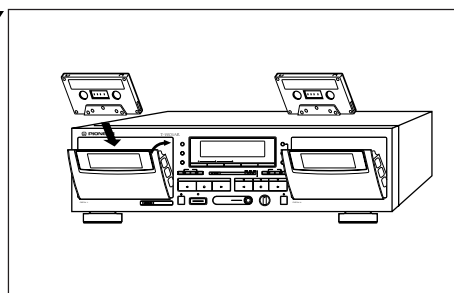
1

STAND BY

POWER STAND BY/ON

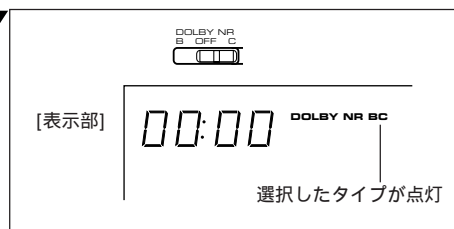
POWER

電源を入れる。

スタンバイインジケーターが消灯します。

2

デッキIまたはデッキIIへテープを入れる。

イジェクトボタン（▲）を押しカセットドアを開け再生用テープ（録音時には録音用テープ）をセットし、カセットドアを指で押して閉めます。

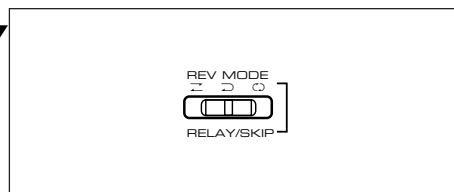
（カセットドアを閉めるときは、カチンと音がするまで、しっかり押して下さい。）

3

ドルビー NR のタイプを選ぶ。

録音時と同じタイプを使用しないとその効果が発揮されません。ドルビー NR を使用せず録音したテープはドルビーNRをオフにしてください。

4

REV MODE

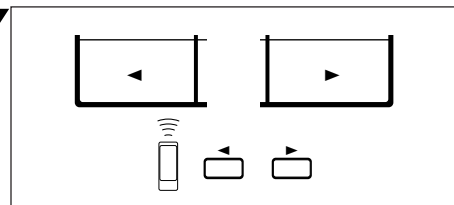
RELAY/SKIP

テープ走行のモードを選ぶ。

リバースモード切換スイッチでテープ走行モードを選ぶ。

⇄ ：片面を再生するときの位置

⊃ ：片面を１回づつ再生するときの位置

⊂⊃ ：両面を繰り返し再生するときの位置（両面再生は停止するまでに、最大８往復繰り返します。）
ただし、デッキ I、II の両方にテープが入っているときはリレー再生 (☞ 13ページ) になります。

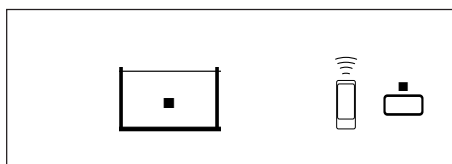
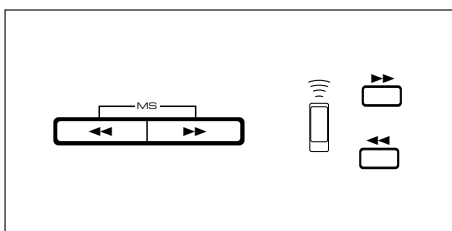
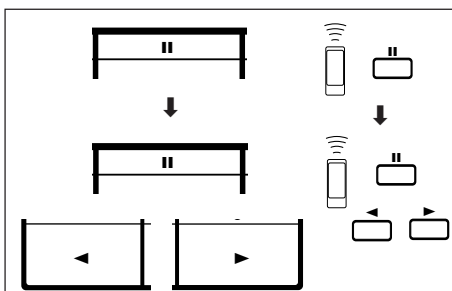
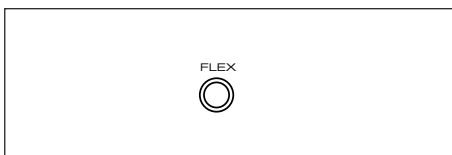
5

デッキ I またはデッキ II のプレイボタン（◀ ▶ ）を押し、再生をはじめる。

▶：カセットドア部より見える面を再生します。

◀：カセットドア部より見えない面（後側）を再生します。

よりよい音で再生するためにフレックスシステムを設定する。（高域が不足している録音済テープを再生する場合）

フレックスボタンを押す。

● フレックスシステムの設定を解除するには、フレックスボタンをもう一度押します。

再生を一時停止するとき

ポーズボタン（II）を押します。
再び再生を開始するには,
プレイボタン（◄、►）または、ポーズボタン（II）を押します。

早送り・巻戻しをするには

►►：停止中に押すと、カセットドア部より見える面を早送り（見えない面は巻戻し）します。
◄◄：停止中に押すと、カセットドア部より見える面を巻戻し（見えない面は早送り）します。

停止する。

ストップボタン（■）を押すと停止します。

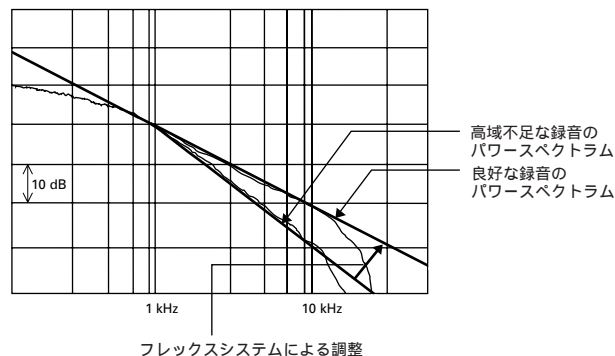
操作

フレックスシステムとは

Frequency Level Expander System
再生時に使う機能です。
それぞれの頭文字を取り、FLEXシステムと名付ています。
このシステムは再生音の低域レベルと高域レベルのバランスが最適（基準＝1/fカーブ）になるように中高域（1kHz以上）の周波数を再生時に自動補正する機能を持っています。近年ハイファイサウンドのパワースペクトラムのカーブは統計的に1/fカーブが多いということが知られています。（1/fカーブとは周波数が２倍でレベルがちょうど半分になるようなカーブです。）

● フレックスシステムは再生音の高域が不足するテープを再生した時に効果を発揮します。
● 高域が不足すると“ こもった音 ”として聞こえますが、“ クリアーな音 ”になるよう、自動補正します。
● 高域がもともと充分な場合は補正はしません。
● 静かな曲や、高域がもともと入っていない曲などは、補正しません。（S/Nの悪化を防止するためです。）
● 高域の10 kHz 付近では最大12 dB 程度周波数特性を改善できるようになっています。
● 再生以外の状態の時は動作しません。

パワースペクトラム

10 dB
1 kHz
10 kHz
高域不足な録音のパワースペクトラム
良好な録音のパワースペクトラム
フレックスシステムによる調整

無録音区間を自動的に飛び越す（ブランクスキップ）

テープの無録音区間を飛び越して再生します。

リバースモードスイッチを⊂⊃の位置にします。

15秒以上無音再生が続くと、サーチ状態になり、早送りして次の曲の頭出し再生をします。
リバースモードスイッチを⊂⊃の位置にすると、リレーモードも働きます。

ドルビー NR システムについて（ノイズリダクション）

本機はドルビーBタイプNR、ドルビーCタイプNRを内蔵しています。
ドルビー NR システムは、テープ再生中に生じる高域のテープヒスノイズ（テープ特有の雑音）を減らすシステムです。録音時に、雑音が耳につきやすい高域の小音量の部分のレベルを上げて録音し、再生時にこのレベルを上げた分だけ減衰させて、もとのレベルにもどします。このとき、同時に耳につきやすい雑音も低減されます。
ドルビー B タイプノイズリダクションでは、高域のテープヒスノイズを低減し、ダイナミックレンジを広げることができます。
ドルビー C　タイプノイズリダクションでは、中域を含めた雑音低減を行うことにより、B タイプに比べてさらに大きな効果があります。
さらに低域にスペクトラルスキューイング回路が追加され、低域のダイナミックレンジが大幅に拡大されています。
ドルビー NR システムで録音したテープの再生は、録音時と同じタイプを使用しないとその効果を発揮できません。

カウンターを切換えるには

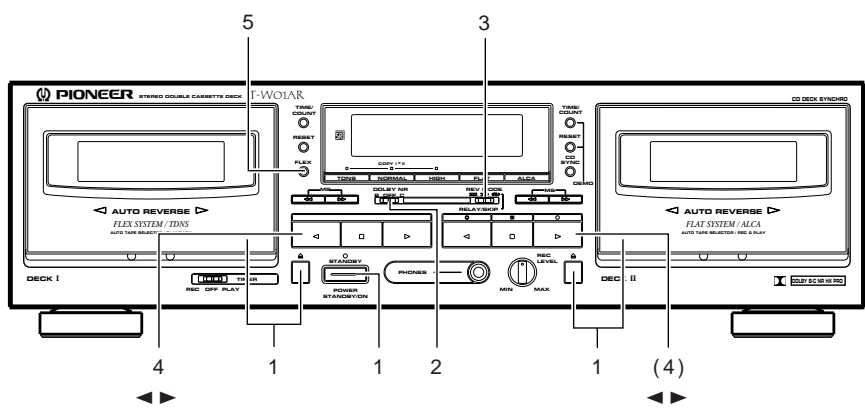
カウンターモードボタン (TIME/COUNT) で２つのモードが交互に切換わります。

テープカウンター：テープの走行によって数字が変わります。
タイムカウンター：録音・再生の経過時間を「分、秒」で表示します。

録音・再生を始めるまえにカウンターリセットボタンを押して0000（タイムカウンターは 00：00）にします。録音または再生中に録音内容と数字をメモしておくと、あとで聞きたいところや録音したいところを簡単に探せます。

● タイムカウンターについて

タイムカウンターは録音および再生時のみ表示します。途中で早送り、またはミュージックサーチをすると時間のカウントを停止し、テープカウンターに切り替わります。再び録音、または再生にもどると時間のカウントを再開します。

連続再生 （リレー再生）

1 電源を入れ、デッキI、IIの両方へテープを入れる。

2 ドルビーNRのタイプを選ぶ。

3 リバースモード切換スイッチを⊂⊃にする。

4 はじめに再生するデッキのプレイボタン（◄ ►）を押し、再生をはじめる。

5 よりよい音で再生するために、フレックスシステムをオンにする。

操作

再生開始方向と再生順序

リバースモード スイッチ	再生開始	再 生 順 序
⊂⊃	デッキI ►	I ► ∞ I ◄ → II ► ∞ II ◄ → I ► . . . . . (32面の連続再生)
⊂⊃	デッキI ◄	I ◄ → II ► ∞ II ◄ → I ► ∞ I ◄ . . . . . (31面の連続再生)
⊂⊃	デッキII ►	II ► ∞ II ◄ → I ► ∞ I ◄ → II ► . . . . . (32面の連続再生)
⊂⊃	デッキII ◄	II ◄ → I ► ∞ I ◄ → II ► ∞ II ◄ . . . . . (31面の連続再生)

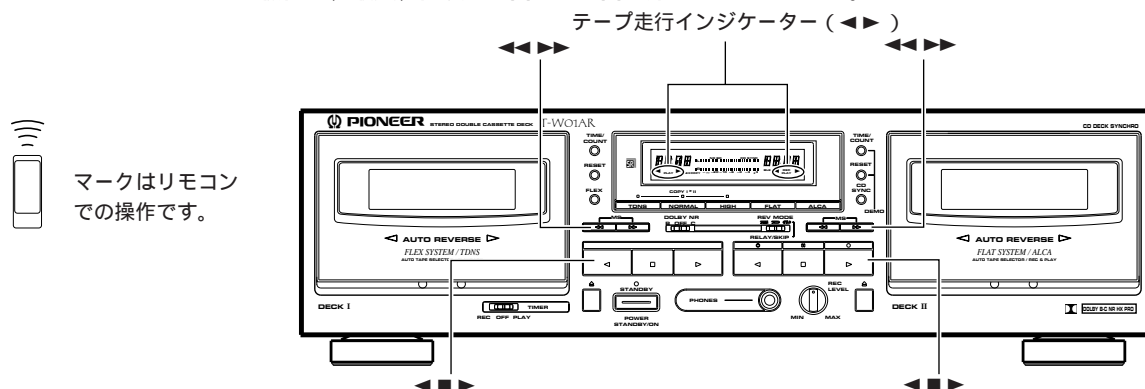
I ► ：デッキI フォワード再生　　I ◄ ：デッキI リバース再生
II ► ：デッキII フォワード再生　　II ◄ ：デッキII リバース再生
∞ ：オートリバース　　→ ：リレー

リレー再生を中断するには . . . . . .

ストップボタン■を押します。

- リレー再生中はスキップ機能が働きますので15秒以上の無録音区間があると、次の曲の頭出しをします。
- 再生していないデッキのテープを交換していくと、次々に違うテープの連続再生ができます。

曲の頭出し（ミュージックサーチ：MS）

- 曲と曲の間の無録音部分を探すことにより、曲の頭出しをして自動的に再生を始めます。
- このミュージックサーチ機能で、最大、前後15 曲までの曲を探すことができます。

■ 今聞いている曲の頭に戻るには

巻戻しボタン（◄◄）を１回押す

テープ走行インジケーター►が点灯しているとき
（フォワード再生中）

カウンター表示

早送りボタン（►►）を１回押す

テープ走行インジケーター◄が点灯しているとき
（リバース再生中）

カウンター表示

■ 今聞いている曲の次の曲の頭出しをするには

早送りボタン（►►）を１回押す

テープ走行インジケーター►が点灯しているとき
（フォワード再生中）

カウンター表示

巻戻しボタン（◄◄）を１回押す

テープ走行インジケーター◄が点灯しているとき
（リバース再生中）

カウンター表示

■ 今聞いている曲より２曲以上先の曲の頭出しをするには（例：３曲先の曲を選んだとき）

早送りボタン（►►）を３回押す

テープ走行インジケーター►が点灯しているとき
（フォワード再生中）

カウンター表示

巻戻しボタン（◄◄）を３回押す

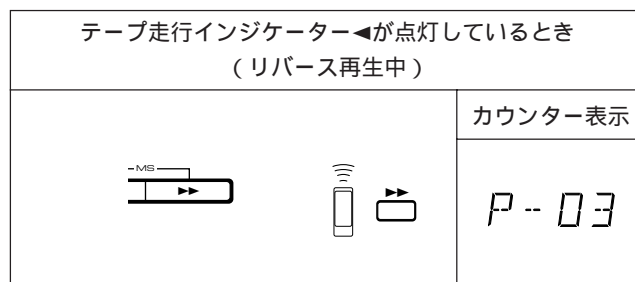
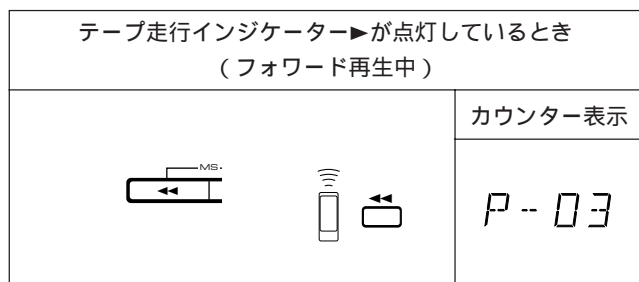
テープ走行インジケーター◄が点灯しているとき
（リバース再生中）

カウンター表示

このように曲数だけ早送りボタン（►►）あるいは、巻戻しボタン（◄◄）を押します。

■ 今聞いている曲より２曲以上前の曲の頭出しをするには（例：２曲目前の曲を選んだとき）

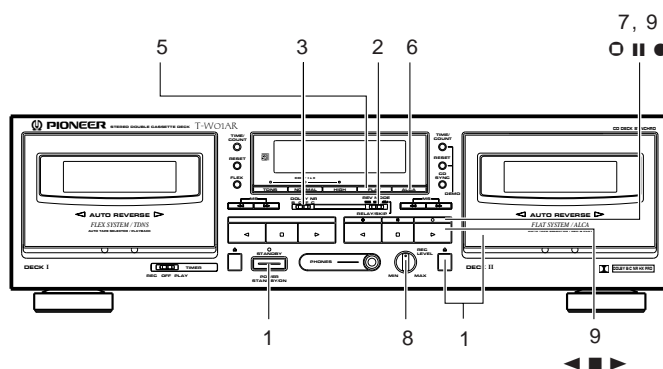
巻戻しボタン（◀◀）を３回押す

早送りボタン（▶▶）を３回押す

このように曲数プラス１回早送りボタン（▶▶）あるいは巻戻しボタン（◀◀）を押します。

次のようなテープではミュージックサーチ機能が曲間を正しく判別できず、誤動作する場合がありますが、本機の故障ではありません。

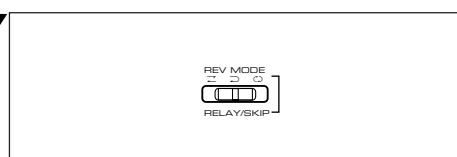
- 曲間に４秒以上の無録音部分がないテープ
- クラシック音楽などのように低いレベルの部分が何秒も続いたり、１曲の中で４秒以上音が途切れているテープ
- 会議や英会話などの音声が途切れているテープ
- 無録音部分にノイズのあるテープ

操作

録音（カセットテープに録音する）

マークはリモコンでの操作です。

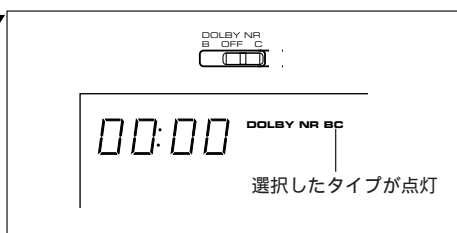
1 電源を入れ、録音用テープをデッキIIにセットする。

- テープの始めにはリーダーテープ（録音できない部分）があるので、約５秒ほどテープを走行させておきます。

2

スイッチを切り換えて片面録音か両面録音かを選ぶ

⊐ ：片面に録音するとき

⊃ ：両面に録音するとき

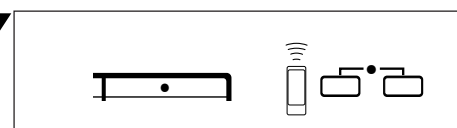
［ただし、走行方向はフォワード（▶）からはじめてください。リバース（◀）からはじめますと片側のみで終わってしまいます。］

3 ドルビー NR のタイプを選ぶ。

4 ステレオアンプの “ 入力切換 ” で録音元の機器を選ぶ。

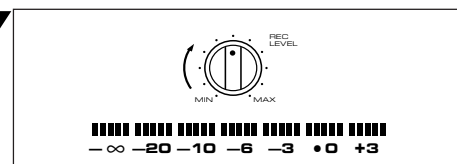
5 FLATシステムを使う場合はFLATシステムボタンを押す。（18ページを参照）

FLATシステムの動作が完了するまで待ってください。

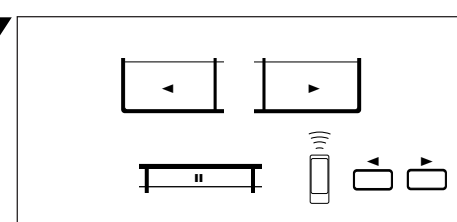
6 ALCAシステムを使う場合はALCAシステムボタンを押す。（18ページを参照）

ALCAシステムが完了するまで待ってください。

7 録音ボタン（●）を押す。

録音一時停止状態になります。

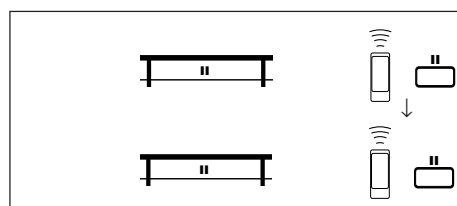
● 再生中に押すと、録音一時停止状態にはなりません。

8 ALCAシステム以外のとき、4で選んだ録音元の機器の音を出し、録音レベルを調整する。

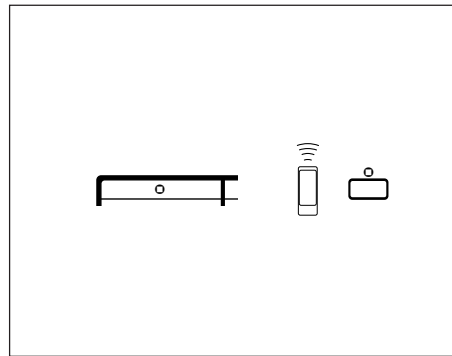
レベルメーターの “ 0dB ” がときどき点灯するぐらいに調整します。

● L, R 同じレベルで録音されます。
(ALCAシステムのとき、録音レベルつまみは効きません。)

9 再生ボタン (◄ ►) を押し、録音をはじめる。

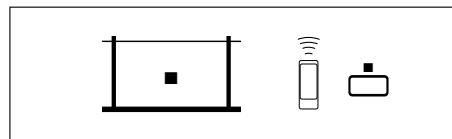
IIを押した場合は、表示部に表示されているテープ走行方向に録音をはじめます。

● 片面録音（リバースモード⊐）
►: カセットドア部より見える面に録音します。
◄: カセットドア部より見えない面（後側）に録音します。

● 両面録音（リバースモード⊃）
必ず ► を押してください。

録音を一時停止するとき

一時停止ボタン（II）を押します。
再び録音を開始するには一時停止ボタン（II）を押します。

曲と曲の間に無録音部分を作るには . . . (オートレコミュート)

録音ミューティングボタン（◘）を押します。
録音インジケーターが点滅になり、約4.5秒後に録音一時停止状態になります。
再び、録音を始めるときは、ポーズボタン(▮▮) を押します。

- ４秒以上のミューティングをしたいときは、録音ミューティングボタン（◘）を押し続けます。指をはなすと録音一時停止状態になります。

録音を止めるには

ストップボタン（■）を押します。

録音レベルを調整しよう

良い音質で録音するためには、録音レベルの調整がキーポイントとなります。S／N比（信号と雑音レベルの比率）を良くし、ダイナミックレンジ（音の大きさの幅）を拡げるためには、できるだけ高いレベルで録音する必要があります。ところがむやみに録音レベルを高くすると音がひずんでしまいます。また、ひずみを心配してレベルを低くし過ぎるとテープヒスノイズ（テープ特有の雑音）が目立ってしまいます。
録音する音の最大レベル、使うテープの限界（最大録音レベル）ぎりぎりにあわせると、そのテープの特性を生かした良い録音になります。レベルメーターの０dBがときどき点滅するくらいに、録音レベル調整つまみで調整してください。実際には、録音する音楽やテープの種類によって多少最適録音レベルは異なります。テープの特性を生かしてより良い録音をするためには、再生音を自分の耳で確かめることも大切です。
ALCAシステムを使うと、上記方法によらなくても最適な録音レベル設定ができます。

録音内容を消すには：

1．録音レベルつまみを最小（MIN）にします。
2．録音ボタン（●）を押し、プレイボタン（► または ◄ ）かポーズボタン（▮▮）を押します。

誤消去防止ツメが折れているカセットテープには録音できません。

録音する面のツメが折れていないか、確認してください。両面録音する場合は両方のツメがおれていないことを確認してください。（☞ 4 ページ）

録音･再生時の走行モードの切換えについて

電源コードをコンセントにつないだ時及び電源ON時のテープ走行モード（フォワード･リバース）は、それ以前に電源を切ったときの方向になります。操作前には、必ずテープの走行方向と残量を確認してください。

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは著作権法上、権利者に無断では使用できません。

ドルビー HX ＰＲＯ について（プロヘッドルーム　エクステンション）

ドルビー HX ＰＲＯ は、音楽信号中の高域成分に応じて、録音時のバイアスを常に最適値にコントロールするシステムです。このシステムによって、エネルギッシュな高域成分の多いデジタルソースでも、すばらしい録音ができます。ドルビーHX ＰＲＯ の効果はドルビーノイズリダクションに関係なく得られます。
またドルビー HX ＰＲＯ は、録音時のみはたらきますので、ドルビー HX ＰＲＯ のないデッキ、ラジカセやカーステレオで再生してもこの効果は十分発揮されます。

- 本機での録音時は常にドルビー HX ＰＲＯ の効果があります。

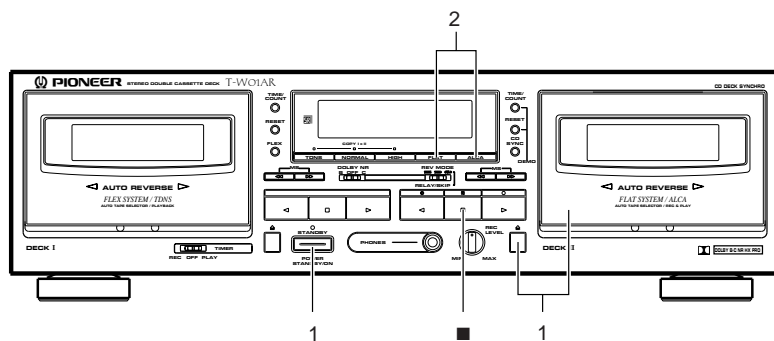
MPX フィルターについて

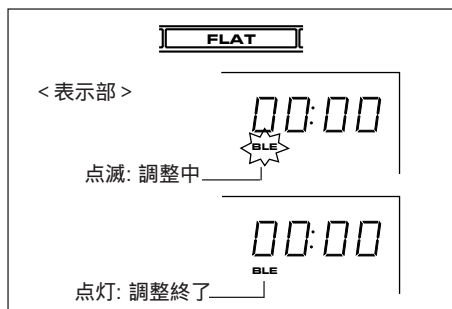
ドルビー NR システムを使って FM ステレオ放送を録音するときに効果があります。
FM ステレオ信号には、19 kHz のパイロット信号と 38 kHz のサブキャリアが含まれており、チューナーによってはこれらの信号でドルビーNR システムが誤動作して、高域が出なくなることがあります。MPXフィルターがオンになることによってドルビーNRシステムの誤動作を防止することができます。

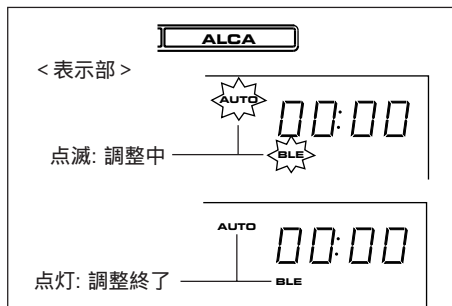
- MPX フィルターは常時オンになっています。

操作

FLAT, ALCAシステムを使った録音

■　この機能ではマイクロコンピューターを使って自動的にバイアス、レベル (感度) およびイコライザーの調整を行います。これを使ってテープによる特性のばらつきを補正し、さらによい音で録音することができます。(FLAT)
さらにFLATシステム及び 0db付近の高周波録音特性よりテープ性能を分析し、テープ性能及び入力信号に応じて自動で録音レベルを設定するALCAシステムがあります。

1 **電源を入れ、録音用テープをデッキIIにセットする。**

2 **FLATシステム又はALCAシステムボタンを押す。**
(各システムは、デッキが停止している状態から行ってください。)

<FLATを使用するとき>
FLATボタンを押す。
“ BLE ”表示が点滅し、FLATシステムの設定がはじまります。

ＢＬＥ: Bias Level Equalizer
(バイアスレベルイコライザー)

<ALCAを使用するとき>
ALCAボタンを押す。
“ ＡＵＴＯ ”“ ＢＬＥ ”表示が点滅し、ALCAシステムの設定がはじまります。
(このとき、録音レベルの設定も自動的に行います。)
＊ 下記ALCA注を参照

調整が終了すると、テープが元の位置まで巻き戻されます。
- 各システムを途中で中止するにはストップボタン（■）を押します。
- 設定後の各システムを解除するにはFLAT又はALCAシステムボタンを押します。

FLAT, ALCAシステムとは

FLAT: Frequency response and Level Auto Tuning system
それぞれの頭文字を取り、FLAT システムと名付けています。
市販されているカセットテープは、同じ種類のテープでも製品によって感度や周波数特性などが微妙に異なるときがあります。テープの特性を最大限に活かしてソースに忠実な録音をするには、使用するテープに最適な録音バイアス、録音レベル（感度）、イコライザーの値を設定する必要があります。このFLATシステムでは、バイアス、レベル、およびイコライザーの調整をマイクロプロセッサーを使用して自動的に行い、個々のテープにおける最適な録音特性を設定することができます。

ALCA: Auto Level Control with tape Analysis
それぞれの頭文字を取り、ALCA システムと名付けています。
FLAT動作及び0dB付近の高周波録音特性よりテープ性能を分析し、テープ性能及び入力信号に応じて自動で録音レベルを設定する機能です。テープ性能を生かしたS/Nの良い録音が可能になります。
- REC/PAUSEで音楽ソースのピーク部分を入力するか、ピークがわからない時、曲の頭から約3分間入力してから録音を始めると最適な録音レベルが設定されるので自然な録音を楽しめます。
- クラシック音楽のような小さい音の場合、録音レベルを上げなかったり、上げるのに時間がかかることがあります。このような場合、ALCAを解除してFLATを行い手動VRで録音レベルを設定してください。
- ALCAシステムを使用した録音では、録音レベルつまみは効きません。

■ 各システム動作中の表示

FLAT（約 45 秒で動作が完了します）

動作内容		カウンターインジケーター	表示部
開始	（開始） ① 早送り	0000	BLE 点滅
	② 録音 ③ 巻戻し ④ 再生	BIAS	
	⑤ 録音 ⑥ 巻戻し ⑦ 再生	LEVL	
	⑧ 録音 ⑨ 巻戻し ⑩ 再生 ⑪ 巻戻し	EQ	
調整完了	⑫ 停止 （調整完了）	0000	BLE 点灯

ALCA（約 50 秒で動作が完了します）

動作内容		カウンターインジケーター	表示部
開始	（開始） ① 早送り	ALCA	AUTO BLE 点滅
	② 録音 ③ 戻す ④ 再生	BIAS	
	⑤ 録音 ⑥ 戻す ⑦ 再生	LEVL	
	⑧ 録音 ⑨ 戻す ⑩ 再生	EQ	
	⑪ 録音 ⑫ 戻す ⑬ 再生 ⑭ 巻戻し	ALCA	
調整完了	⑮ 停止 （調整完了）	0000	AUTO BLE 点灯

エラー表示 （Err） について

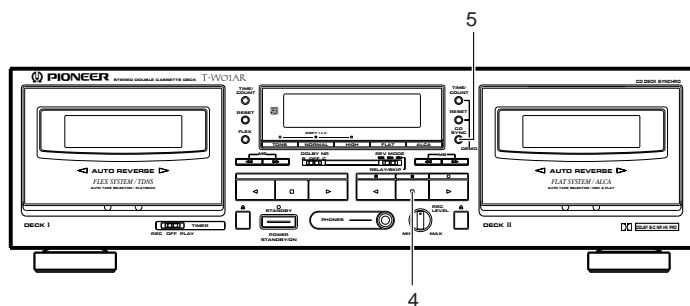
ヘッドが汚れている場合や使い古したテープなどを使用した場合、またはテープの終り近くで調整した場合は、調整不可能になりカウンター表示部で“ Err ”が点滅します。
そのようなときは、ヘッドを清掃したり早送りか巻戻しを数秒間行ってから、もう一度FLAT又はALCAシステムボタンを押して調整してください。もし、再度エラー表示がでたら、フラットシステムを使用しないで録音するか、テープを交換してください。

FLAT, ALCAシステムの動作のしくみ

FLATシステムボタンを押すと、内蔵された発振回路が動作して、テープに測定用の信号が録音されます。それをマイクロプロセッサーがテープに応じた調整を行い、最適な録音特性を設定します。
ALCAシステムでは、FLATシステム動作にプラスして、0db付近の高周波録音も行い、入力信号に応じて、自動的に最適な録音レベルに調整します。（このとき、録音レベルは内部の回路で行いますので、録音レベルのつまみは働きません。）設定が完了するとスタート位置まで自動的に巻き戻されます。録音を開始するとこの信号は消されて残りません。
この調整は録音時のみ有効です。

- 調整のため、測定の信号をテープ上に記録しますので、調整中に走行した部分に録音されている音楽などは消えてしまいます。
- 各システムを使うときのドルビーＮＲは、どのタイプでも使用できます。また、調整後ドルビーＮＲのタイプを変えても各システムの効果には影響ありません。
- 各システム動作中は、再生や早送りの操作はできません。ただし、調整中の他方の側に限り、早送りの操作ができます。
- 各システム設定後、テープを変えたときは再設定してください。
- 録音、録音一時停止または録音ミューティング中に各システムボタンを押しても設定解除はできません。
- 電源スタンバイ時及び電源コードを抜いた場合、又はタイマー録音時でもFLAT, ALCAシステムのデータは保持されます。

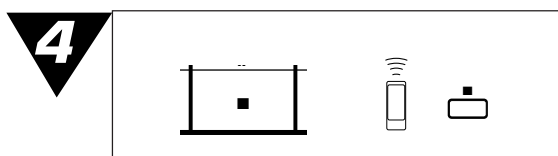
CDとの同時録音（CD・デッキシンクロ）

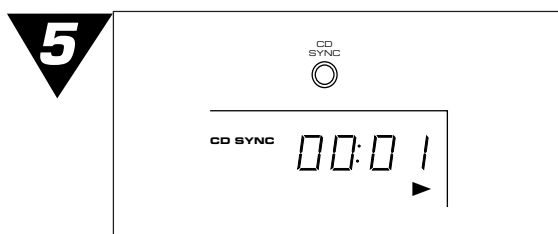
■ ワンタッチで CDプレーヤーの再生とデッキの録音が同時に開始します。
シンクロ録音は、当社の CD・デッキシンクロ対応 CDプレーヤーと接続した場合のみ操作できます。
（CDプレーヤーとのシンクロ接続は６ページを参照）

マークはリモコンでの操作です。

ステレオアンプの“入力切換”で CD を選びます。

録音したい CD を、 CD プレーヤーにセットします。

録音する手順に従って、録音レベルを調整します。

15, 16ページ手順 7～8

ストップボタン（■）を押して、停止状態にする。

CD プレーヤーも停止してください。

CDシンクロボタンを押す。

自動的に CD プレーヤーが再生を始め、本機が録音を開始します。

CD の再生が終了すると

CD プレーヤーは停止し、本機は録音一時停止状態（◄または► インジケーター点滅）になります。(１分後に停止になります。)

CD の再生途中でデッキがオートリバースすると

CD プレーヤーは、再生中の曲（途中で切れた曲）のはじめに戻って、一時停止します。
デッキはオートリバースした後約10秒間テープを送行してから録音状態になり、CD プレーヤーも曲のはじめから再生を開始します。

CD 再生途中でテープが終了すると

CD プレーヤーは、再生中の曲（途中で切れた曲）のはじめに戻って、一時停止します。本機のテープを入れ換えてプレイボタン（◄, ►）を押して希望の走行方向にし、ただちにストップボタン（■）を押します。それから CD シンクロボタンを押すと、再び録音を開始します。１分以内に CD シンクロボタンを押さなかったときは、CD プレーヤーは停止します。

CD プレーヤーがディスクチェンジするとき

(ツイントレイ CD プレーヤー、マガジン式 CD プレーヤー、ファイルタイプCD プレーヤー使用）
本機は録音一時停止状態になり、次のディスクが再生されると再び録音を再開します。曲間は自動的に約４秒間になります。

CD とデッキの録音のタイミングについて

CD シンクロボタンを押すと録音は始まりますが、CD プレーヤーは CD シンクロボタンから手を離すまで再生されませんので、これを利用してテープのはじめのリーダーテープ部分を飛ばしたり（約５秒間押し続ける）、無録音部分を作ったりすることができます。

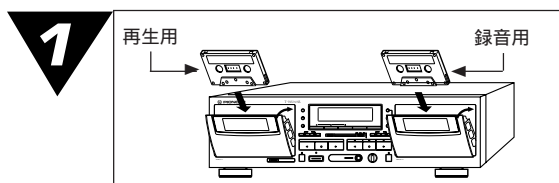
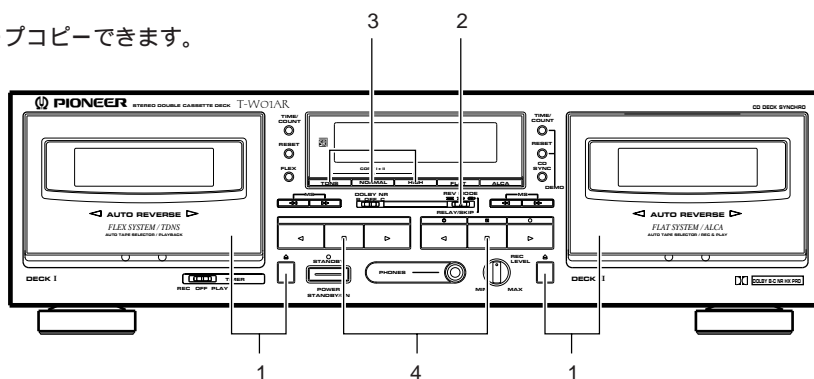
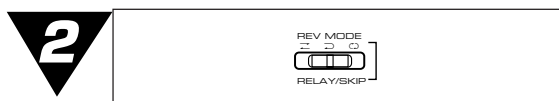
プログラム録音

CD プレーヤーで、好みの順にプログラムしておくとその順でテープに録音することができます。

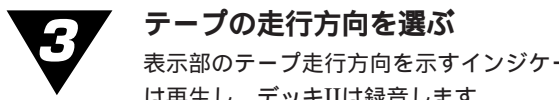
CDプレイヤーの種類は？

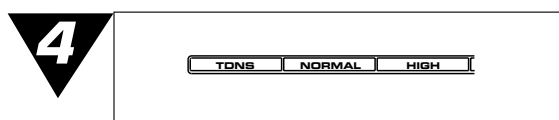
CD・デッキシンクロ対応のプレーヤーであれば、ツイントレイCD プレーヤーまたはマガジン式 CD プレーヤー、ファイルタイプCD プレーヤーも接続できます。また、コンパチブルレーザーディスクプレーヤーでも CD・デッキシンクロ対応のプレーヤーならば接続できます。

テープコピー

■ デッキIからデッキIIへテープコピーできます。

1 **再生用カセットをデッキIへ、録音用カセットをデッキIIへ、それぞれ入れる。**

2 **スイッチを切換えて片面コピーか両面コピーかを選ぶ。**

REV MODE

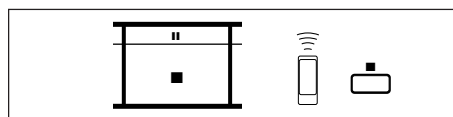
RELAY/SKIP

テープの走行方向を選ぶ

表示部のテープ走行方向を示すインジケーター (◄ ►) の点灯している方向へデッキIは再生し、デッキIIは録音します。

4 **シンクロコピーボタンを押す。**

ボタンを押すと、ただちにコピーがスタートします。

NORMAL : 定速コピー
HIGH　　: 倍速コピー
TDNS　　: TDNSコピー (定速コピー)

コピーを中止するとき

どちらかのデッキのストップボタン (■) を押します。

- ドルビーNRも同じタイプでコピーされます。
- 曲を聴きながらテープ全体をコピーする定速コピーと、その半分の時間でテープ全体をコピーする倍速コピーと、曲間ノイズの少ないコピーができるTDNSコピーの3種類のテープコピーが行えます。
- 倍速コピー中は、ストップボタン（■）以外の操作ボタンは機能しません。
- 定速コピーまたは、TDNSコピー中は、デッキIIに対して録音ミューティングボタン（O）と一時停止ボタン（II）が機能します。
- 片方のデッキがテープエンドでオートストップになった時点で、テープコピーモードが解除されますので、両方のデッキには同じ長さのカセットをセットしてください。
- 同じ録音内容を複数コピーするときは、オリジナルテープからコピーしてください。コピーテープをさらにコピーすると、音質が悪くなります。
- 倍速コピー時に、テレビが近くにあるとノイズ（ピーという音）が録音されることがあります。この場合は、定速コピーにするか、テレビの電源を切ってください。
- 定速、倍速コピー中は、録音レベルは再生側テープとほぼ同じレベルで自動的に設定されます。（録音レベルつまみは働きません。）

TDNS コピーとは

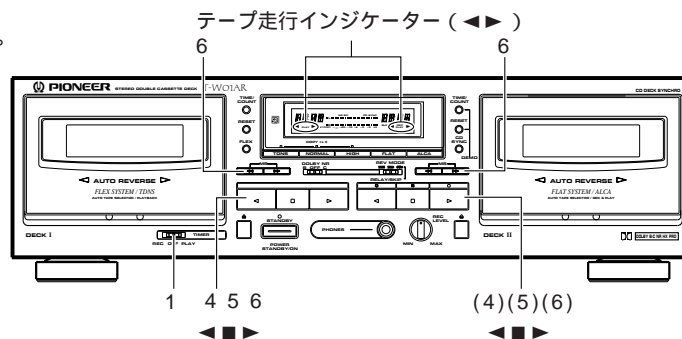
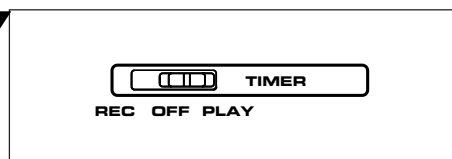
TDNS: Tape Duplication Noise Supressor
それぞれの頭文字を取り、TDNSコピーと名付けています。
アナログカセットテープでは、録音する時にかける録音バイアスによってノイズが記録されてしまいます。
しかし、録音しようとしている音楽信号が無信号のときには、録音バイアスをかける必要はありません。このTDNSコピーでは、録音しようとしている音楽信号のレベルを検知し、音楽信号のレベルが低いときには、録音バイアス量を少なくすることによって、録音バイアスによるノイズを減らすことが可能になりました。従来のコピーに比べ、曲間でのノイズが小さいテープがつくれます。

- 曲間ノイズと音楽信号の区別がつきにくいテープの場合、TDNSコピーの効果がでない場合があります。この時は、定速コピーまたは倍速コピーを使用してください。

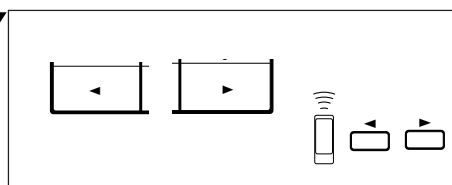
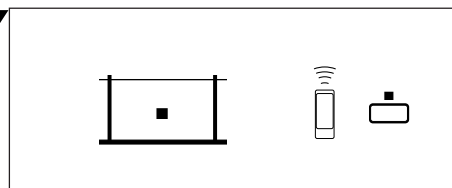
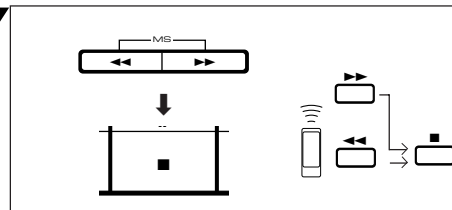
操作

タイマー再生 (目覚し再生)

■ オーディオタイマーを接続してください。
(オーディオタイマーの取扱説明書をご覧ください。)

マークはリモコンでの操作です。

タイマー切換スイッチを"PLAY" (再生)側に合わせる。

10 ページの手順 1 ～ 4 または13ページの手順 1 ～ 3 までの再生準備をおこなう。
(タイマー再生は表示部にあるテープ走行インジケーター（◄または►）の点灯している方向からはじまります。)

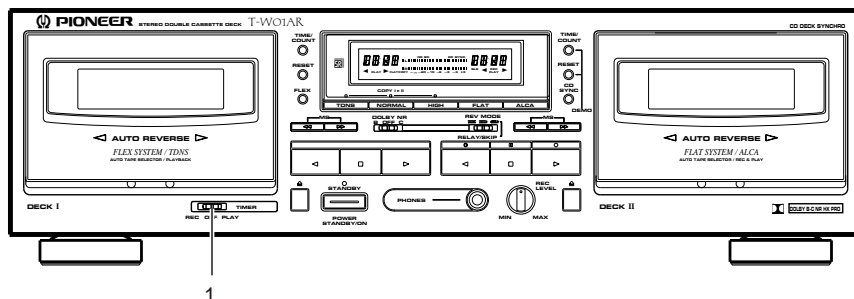
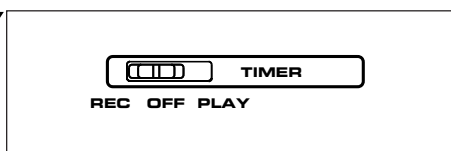
ステレオアンプの " 入力切換 " でテープを選ぶ。

再生してみる。
タイマー再生のとき適切な音量・音質が得られるように、あらかじめステレオアンプ側で調整をします。

停止する。

再生を始めたい位置にテープを巻き取るまたは巻き戻す。

オーディオタイマーを希望の時刻にセットする。
● 各機器の電源がオフになります。
セットした時間になると各機器の電源がオンになり再生が自動的にはじまります。

タイマー動作を行わないときは…

タイマー切換スイッチを必ずオフ (OFF) の位置にしてください。PLAY 側になっていると、電源がオフからオンになったときや停電の場合に自動的に再生を開始してしまいます。（スタンバイ状態からオンにした場合は、自動再生はしません。）

タイマー録音 (留守録音)

■ オーディオタイマーを接続してください。
(オーディオタイマーの取扱
説明書をご覧ください。)

タイマー切換スイッチを"REC"(録音)側に合わせる。

15、16ページの手順 1 ～ 8 で録音準備をする。

● テープの始めにはリーダーテープ（録音できない部分）があるので、約5秒ほどテープを走行させておいてください。

オーディオタイマーを希望の時刻にセットする。

● 各機器の電源がオフになります。
セットした時間になると各機器の電源がオンになり、録音が自動的にはじまります。

操作

タイマー動作を行わないときは…

タイマー切換スイッチを必ずオフ (OFF) の位置にしてください。
REC 側になっていると、電源がオフからオンになったときや停電の場合に自動的に録音を開始してしまいます。（スタンバイ状態からオンにした場合は、自動録音はしません。）

ご注意：

■ カセットのツメが折れていると録音はできません。ツメの折れていないカセットを使用してください。
■ アンプの音量つまみを下げておくことをおすすめします。

ラストメモリーについて

本機では、半導体不揮発メモリーを使用して、FLAT, ALCAシステム（☞18ページ）で得られたバイアス、レベル、イコライザー、録音レベルのデータをはじめ、各種スイッチのON/OFF等を記憶します。不揮発メモリーのため、電源コードを抜いても記憶内容は消去されません。

メモリーには次のものが記憶されます。

- FLAT, ALCAシステムデータ....バイアス、レベル、イコライザー、録音レベル
- テープ走行方向..................◄、►
- テープカウンター (タイムカウンターは記憶しません。)
- 電源の状態 (オン/スタンバイ)
- フレックスシステムデータ....オン、オフ

メモリーを元に戻すとき

記憶した各種のデータをすべて初期状態 (工場出荷状態)に戻すときは、デッキI カウンターモードボタンと録音ミューティングボタン(O) を同時に押してください。

故障？ちょっと調べてください

● 症状にあわせて下の項目をチェックしてみてください。下の項目をチェックしてもなおらない場合は、アフターサービスの項をお読みのうえ、修理を依頼してください。

症　　状	原因と思われるところ	処　　置
電源が入らない	電源プラグのゆるみ、はずれ。	電源プラグの接続を確認。
テープが走行しない	テープが巻き取られている。	テープを巻き戻す、または逆方向に再生／録音する。
	一時停止状態になっている。	ポーズボタンまたはプレイボタンを押す。
	カセットテープがきちんと入っていない。	カセットテープを正しく入れる。
音がでない	正しく接続されていない。	接続をもう一度確認して接続コードのゆるみ、はずれをなおす。（☞６ページ）
	ヘッドが汚れている。	ヘッドを清掃する。（☞５ページ）
	アンプのつまみ類の位置が正しくない。	デッキの再生に応じた正しい位置にセットする。
録音できない	カセットテープのツメが折れている。	カセットテープを交換するか、ツメの部分にセロハンテープを貼って穴をふさぐ。（☞４ページ）
	ヘッドが汚れている。	ヘッドを清掃する。（☞５ページ）
	録音レベルつまみが“ MIN ”になっている。	“ MIN ”になっている録音レベルつまみを右方向に調節。
	アンプのつまみ類の位置が正しくない。	アンプの入力切換を正しくする。
	正しく接続されていない。	接続をもう一度確認して接続コードのゆるみ、はずれをなおす。（☞６ページ）
高音域がのびない	ヘッドが汚れている。	ヘッドを清掃する。（☞５ページ）
	テープの検知孔をテープなどでふさいでしまっている。	検知孔をふさいでいるテープをとる。
	ドルビー NR システムで録音していないテープをドルビー NR を使って再生している。	ドルビー NR を OFF にする。
音がひずむ	ヘッドが汚れている。	ヘッドを清掃する。（☞５ページ）
	録音済みテープ自体にひずみがある。	カセットテープを交換してみる。
	録音レベルが高すぎる。	録音レベルを下げて録音する。
音がふるえたり、音とびがする	ヘッド、キャプスタン、ピンチローラーが汚れている。	ヘッド、キャプスタン、ピンチローラーを清掃する。（☞５ページ）
	カセットテープが一様に巻かれていない。	早送りまたは巻戻しをして、テープを巻き直す。
	テープ走行面が汚れている。	カセットテープを交換してみる。
雑音が多い	ヘッドが帯磁している。	ヘッドイレーサーで消磁する。（☞５ページ）
	雑音の多いテープを使用している。	カセットテープを交換してみる。
	接続コードの差し込み不完全。	各入力／出力の接続部を点検し、コードを正しく差し込む。（☞６ページ）
	ヘッドが汚れている。	ヘッドを清掃する。（☞５ページ）
	録音レベルが低すぎる。	録音レベルを上げて録音する。
高音が強調されすぎる	ドルビー NR システムで録音したテープをドルビー NR 切換スイッチ OFF で再生している。	ドルビー NR 切換スイッチで録音時と同じドルビー NR システム（B, Cのいずれか）を選ぶ。
消去できない	録音レベルつまみが最小の位置になっていない。	録音レベルつまみを 0 にする。
	ヘッドが汚れている。	ヘッドを清掃する。（☞５ページ）
ミュージックサーチが働かない	曲と曲の間の無録音部が４秒以上ない。	無録音部が４秒以上あるカセットテープと交換してみる。
	他方のデッキが再生中である。	再生中のデッキを停止する。

症　　状	原因と思われるところ	処　　置
電源を入れると再生または録音を始める	タイマー切換スイッチが PLAY または REC の位置になっている。	タイマー切換スイッチを OFF に合わせる。
CD・デッキシンクロ機能が働かない	付属の CD・デッキシンクロコードまたは入力、出力コードを接続していない。	正しく接続する。（☞６ページ）
リモコンで操作できない	リモコンに電池が入っていない、または電池が切れている。	電池を入れる、または新しい電池に変える。
	本機と距離がありすぎる、または角度が悪い。	リモコンは本機との距離が約７m 以内、前面パネルとの角度が左右にそれぞれ30°以内で操作可能。
	本機との間に障害物がある。	リモコンの操作場所をずらすか、障害物を取り除いて操作する。
	蛍光灯がリモコン受光部の近くにある。	蛍光灯をリモコン受光部から離す。
録音レベルコントロールが働かない。	ALCAが動作中である。	ALCAを解除する。
	テープコピー中である。	テープコピーを解除する。

静電気など、外部からの影響により本機が正常に動作しないことがあります。
このようなときは、電源スイッチを入れたり切ったりするか、電源コードを一度抜いて、再度差し込むことにより正常に動作します。

自己診断機能

自己診断機能とは、エラー発生時に、サービス番号をフロントパネルFL表示部に自動的に表示させる機能です。サービス番号をお客様が確認し、サービスマンに伝えることによって製品修理が効率的に行われることを目的としています。

m3

- サービス番号の、m3はデッキ IIのカウンターインジケーターに、m4はデッキ IIのカウンターインジケーターに表示されます。

サービス番号	本機の状態	原因	処置
m3	DECK I がメカロック状態になった。	カセットデッキが動作中にイジェクトボタンが押された。	● カセットテープを取り出して電源を再投入する。 ● 修理を依頼される時は、本体FL表示部のサービス番号をお知らせ下さい。
m4	DECK II がメカロック状態になった。	カセットデッキが動作中にイジェクトボタンが押された。	● カセットテープを取り出して電源を再投入する。 ● 修理を依頼される時は、本体FL表示部のサービス番号をお知らせ下さい。

その他

仕様

T-W01R

■システム

トラック方式 .... ４トラック、２チャンネルステレオ
ヘッド
　録音/再生ヘッド .... ハードパーマロイ×１
　再生ヘッド .... ハードパーマロイ×１
　消去ヘッド .... フェライト×１
モーター .... DCサーボモーター×２
ワウ・フラッター .... 0.09%WRMS（JIS）
±0.16% W. PEAK （EIAJ）
早巻き時間 .... 約100秒（C-60の場合）
周波数特性
　TYPE IV （メタル）
　テープ .... 20Hz〜16,500Hz±３dB
　TYPE II （クローム/HIGH）
　テープ .... 20Hz〜16,000Hz±３dB
　TYPE I （ノーマル）
　テープ .... 20Hz〜16,000Hz±３dB
SN比 .... *56dB（EIAJピーク録音レベル、
TYPE IV テープ、聴感補正）
　DOLBY NR OFF.. 57dB以上
　DOLBY Bタイプ NR ON 66dB以上
　DOLBY Cタイプ NR ON 73dB以上
（第３次高調波ひずみ率３%、聴感補正）

■入・出力端子

ライン入力端子 .... RCAピンジャック×２
入力レベル100mV
（入力インピーダンス68kΩ）
ライン出力端子 .... RCAピンジャック×２
基準出力レベル0.5V
（出力インピーダンス1.9kΩ）
ヘッドホン出力端子 ステレオ標準ジャック1.33mW
（負荷インピーダンス32Ω）

■電源部・その他

電源電圧 .... AC100V、50/60Hz
消費電力 15W
最大外形寸法 .... 420(幅)×125(高さ)×250(奥行き) mm
本体重量 4.2kg

■付属品

オーディオコード（RCAピンプラグ付入・出力コード） 2
CD・デッキシンクロコード 1
ワイヤレスリモコンユニット 1
リモコン用単4形乾電池（IEC呼称 R03） 2
取扱説明書 1
保証書 1
ご相談窓口・修理窓口のご案内 1
安全注意書 1

■付属機能

- FLEX システム
- MPX フィルター （常時オン)
- CD・デッキシンクロ機能
- オートリバース
- ドルビーB/C NR
- MS/±15曲飛び越し選曲
- オートテープセレクター
- タイマー録音/再生スタート
- オートスペースレコミュート
- FL ピークレベルメーター
- FL ４桁２モード（タイム/カウンター）カウンター
- ヘッドホン端子
- ワイヤレスリモコン
- 定速、倍速コピー
- TDNSコピー
- FLATシステム
- ALCAシステム
- リレー再生／ブランクスキップ
- ラストメモリー
- ドルビーHX PRO プロヘッドルームエクステンション

＊は日本電子機械工業会（EIAJ）規格に定められた測定方法による数値です。

- 上記の仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

著作権について

- 放送やレコードその他の録音物（ミュージックテープ、カラオケテープなど）の音楽作品は、音楽の歌詞、楽曲などと同じく、著作権法により保護されています。
- 従って、それらから録音したテープを売ったり、配ったり、譲ったり、貸したりする場合、および営利（店のBGMなど）のために使用する場合には、著作権上、権利者の許諾が必要です。
- 使用条件は、場合によって異なりますので、詳しい内容や、申請、その他の手続については、「日本音楽著作権協会」(JASRAC) の本部または最寄りの支部にお尋ねください。

社会法人　日本音楽著作権協会　（JASRAC・音権協）

本部	TEL 03（3502）6551	（大代表）
北海道支部	TEL 011（221）5088	（代表）
盛岡支部	TEL 0196（52）3201	（代表）
仙台支部	TEL 022（264）2266	（代表）
大宮支部	TEL 048（643）5461	（代表）
東京支部	TEL 03（3562）4455	（代表）
西東京支部	TEL 03（3232）8301	（代表）
横浜支部	TEL 045（662）6551	（代表）
静岡支部	TEL 054（254）2621	（代表）
中部支部	TEL 052（583）7590	（代表）
北陸支部	TEL 0762（21）3602	（代表）
京都支部	TEL 075（251）0134	（代表）
大阪支部	TEL 06（244）0351	（代表）
大阪北支部	TEL 06（244）7077	（代表）
神戸支部	TEL 078（322）0561	（代表）
中国支部	TEL 082（249）6362	（代表）
四国支部	TEL 0878（21）9191	（代表）
九州支部	TEL 092（441）2285	（代表）
鹿児島支部	TEL 0992（24）6211	（代表）
那覇支部	TEL 098（863）1228	（代表）

（1996年2月現在）

お客様ご相談窓口(修理に関しては別添「ご相談窓口･修理窓口のご案内」参照)

お客様相談センター	TEL 03-3491-8181			
技術相談窓口	◎札幌	TEL 011-644-4779	◎大阪	TEL 06-353-3705
	◎仙台	TEL 022-375-4417	◎広島	TEL 082-228-2239
	◎名古屋	TEL 052-532-1141	◎福岡	TEL 092-441-8076

長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。こんな症状はありませんか
- **電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。**
- **電源コードにさけめやひび割れがある。**
- **電気が入ったり切れたりする。**
- **本体から異常な音、熱、臭いがする。**

すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、故障や事故防止のため電気店または当社サービスステーションに点検（有料）をご依頼ください。

パイオニア株式会社　〒153 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

<96B00ZY0T00>　印刷国　マレーシア　<RRA1100-A>